

第二次東京都子供読書活動推進計画について〈概要版 第1部〉

平成21年3月5日
地域教育支援部

子供の読書活動 基本理念 (はじめに)

子供にとって読書とは「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」
(「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条)
〔 都はこのような理念にのっとり、子供に多様な読書へのきっかけを提供し、様々な分野の本と出会う環境をつくっていく。 〕

第一次計画(平成15年3月策定)における東京都の取組(第1部 第1章 第1)

○第一次計画の性格

- すべての子供が自主的に読書活動に取り組むことができるよう、家庭・地域・学校のそれぞれが果たす役割を示す。
- 「東京都の取組」と「区市町村に期待される取組」を明らかにし、区市町村が計画を策定する際の基本とする。

子供の読書活動の環境整備

○東京都の取組

学校に関する取組

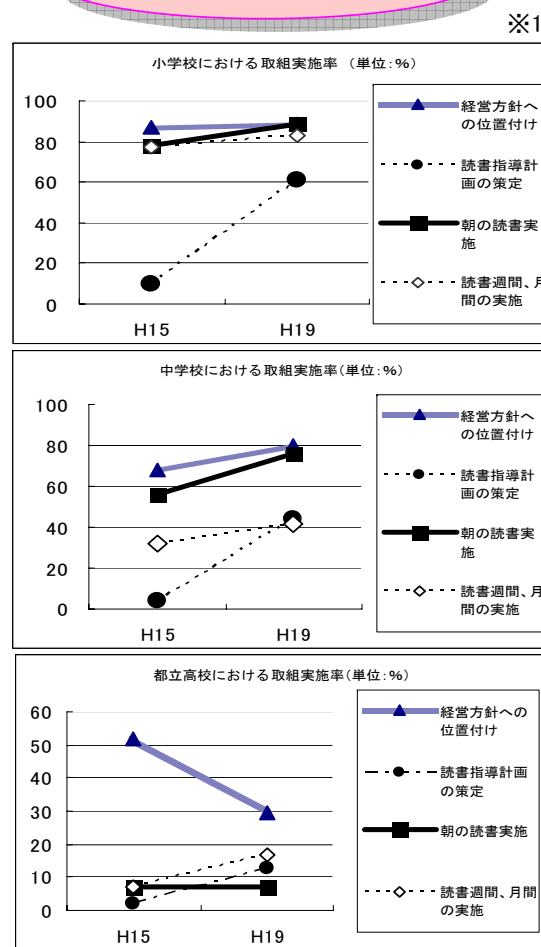
- 1 学校における読書活動の推進
司書教諭等に対する研修等
- 2 都立図書館による学校支援
学校図書館からの相談受付、
見学・体験学習等の受入れ等

家庭・地域等に関する取組

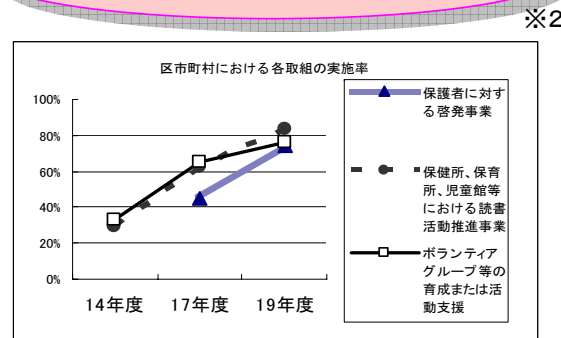
- 1 啓発資料の作成及び配布
- 2 子供読書フォーラムの開催
- 3 ボランティアリーダーの育成
- 4 都立図書館による区市町村支援

取組の成果(第1部 第1章 第2)

学校における取組の拡大

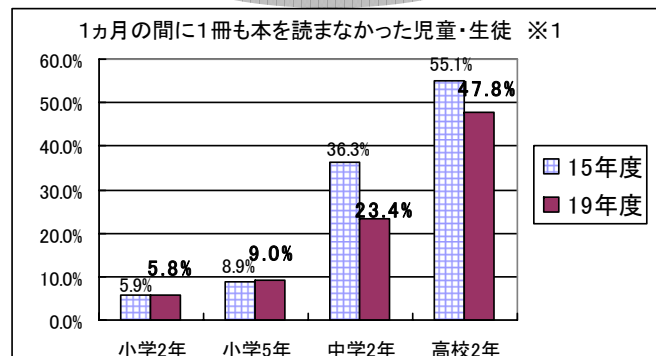


家庭・地域等における取組の推進



家庭への啓発、各施設での取組が着実に進む。

未読者率の減少

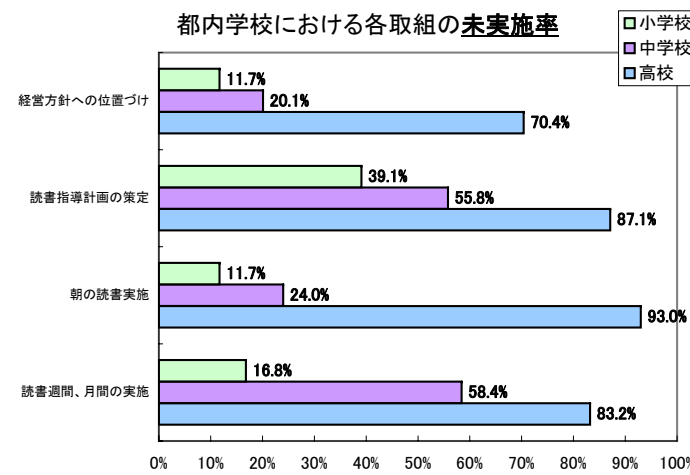


各学年においておおむね減少している。
※1 東京都教育庁指導部調査より作成
※2 東京都教育庁生涯学習部調査より作成

小中学校では取組が着実に進む一方、都立高校での取組実施率は低い。

課題(第1部 第1章 第3)

取組の進んでいない学校の存在



依然として取組が遅れている学校が存在。特に都立高校では割合が高い。

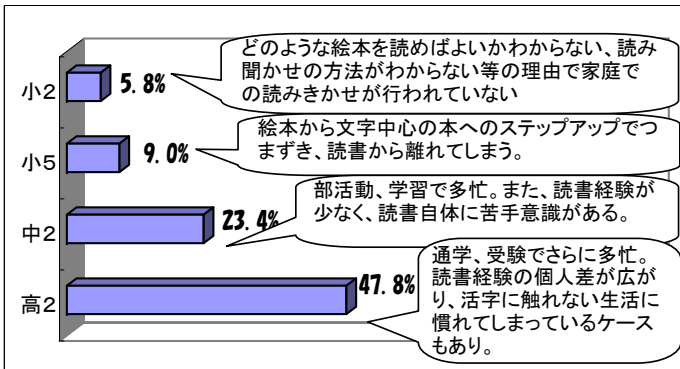
東京都教育庁指導部調査より作成

【考えられる要因】

読書活動への意識が低い学校の存在。

読書意欲の低い子供の存在

未読者(19年度)の現状および未読の原因



東京都教育庁指導部調査より作成

【考えられる要因】

読書活動が、集団を対象とした取組中心であったため、読書意欲の低い児童・生徒一人一人への支援が十分に行われてこなかった。

絵本の読み聞かせが行われていない家庭の存在

【考えられる要因】

- ・時間的制約等で読み聞かせに意識が及ばない。
- ・絵本の与え方や、読み聞かせのやり方がわからない。

【参考】「お話を聞かせたり、本を読んでその感想を話し合ったりする」家庭
未就学 74.5%
(全国家庭児童調査結果 厚生労働省 H16)

推進計画の実施に加えて
都教委から子供たちへ向けて
読書のメッセージ
を発信

第二次計画の基本方針(第1部第2章)

●各学校において組織的な取組を徹底する 読書指導計画の策定 (各学級における授業内容の工夫を加える)

未読者率の低い学校の取組例 1

○組織的取組例

- ・「授業改善推進プラン」で朝読書活動を学びの基礎力として位置づけ
- ・学校図書館巡回司書の配置
- ・生徒同士による読書の感想の交換など授業の工夫

未読者率の低い学校の取組例 2

○組織的取組例

- ・校内で読書プロジェクトを立ち上げ、読書活動を推進
- ・全クラスで学級文庫設置
- ・読書週間での全校一斉読書

●未読者を中心とした児童・生徒一人一人への取組を新たに加える

児童生徒一人一人に応じた取組 ← 読書指南役による読書指導

未読者率の低い学校の取組例 3

○組織的取組

- ・年間指導計画による各授業での図書・図書館利用
- ・学校図書館レイアウトの工夫(調べるフロアと読むフロア)、学校図書館指導員の配属
- ・全校一斉読書(毎日)
- ・各家庭における親子読書期間の設定

○一人一人への取組へ向けて

- ・クラス担任による児童一人一人の読書状況把握

●区市町村・各学校に向けた事例・ノウハウ等の十分な情報提供を行う

●乳幼児のいる家庭への啓発・支援を進める

●計画内容にかかる取組状況を定期的に検証する

5年後(平成25年度)に未読者率の半減を目指す

小2生	5.8	→	2.9%
小5生	9.0	→	4.5%
中2生	23.4	→	11.7%
高2生	47.8	→	23.9%